



○ 中四国 PTA 連合会高知大会に参加して

7月に高知市で開催された中四国地区PTA大会での講演については始業式で触れたところです。本大会では高校生による発表や実習製品の販売もありました。



最初の発表は、音楽科のある高知丸の内高校の合唱でした。丸の内高校では、生徒手帳と年間行事予定の入ったスケジュール帳とが一体となった通称「まる手帳」が毎年配布されていて、これを使って学習計画を立てたり、メモをとったりして、夢の実現のために役立てているそうです。

高知県は私立中学受験が盛んで、私も大学時代は小学生の家庭教師を何軒もしました。大会でPTA活動の取り組み発表をされた高知国際中・高のように、今は公立中学校の一部にも受験があるようです。中学校受験があることは、早くから自分の夢やその実現のためにすべきことと向き合うことにもなります。

高知農業高校は、農福連携と商品開発をテーマに、「南国にしがわ農園」と取り組んだ共同研究発表でした。農福連携とは、障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のことです。（農林水産省HPより）

土佐カツオー本釣り漁業やホエールウォッチングなどで有名な黒潮町にある大方高校は、南海トラフ地震に備え、「犠牲者ゼロ」を目標に掲げて防災に取り組む黒潮町で、高校生ができることは何かを考え実践していることの発表でした。昨年度発行の校長室だより第14号で、児童74名、教職員10名が学校管理下で津波の犠牲になった大川小学校を訪れた際のことを書きました。南海トラフ地震では、その時の津波の高さを大きく上回る 34.4mの津波が想定されています。そういう意味でも大方高校の生徒の発表には切実感がありました。高校が避難所運営をすることを想定した避難所運営ゲームや避難路検証のための避難訓練を地域の方々とは何度も取り組んだり、小中学校で出前授業などをしたりしているそうです。教育活動の枠を超えて地域貢献に取り組む高校生の姿に感銘を受けました。

発表で一番印象に残ったのが元阪神タイガースの藤川球児投手の出身校でも有名な市立高知商業高校の生徒会執行部の取り組み発表でした。模擬会社を設立し、ラオスでの交流で生徒会執行部が現地調達した民芸品などを文化祭や地域イベントで販売し、その利益でラオスに学校を建設するという取り組みです。この活動には 1994 年から歴代執行部が取り組んでいて、すでに9校の幼稚園や小学校の建設が実現しているそうです。発表では取り組む高校生の熱量や情熱を大いに感じました。

ある講演会で知ったある小学校のエピソードです。「毎日終礼の時、クラス全員に小さな気遣いをしたか先生が問いかけ、全員できていたら先生が教室の募金箱に募金する。その募金箱が満杯になった時、先生がどこに募金するか話し合わせたら、文房具を買って、アジアで貧困にあえぐ子どもたちに寄付することになった。」というものです。自分で考え、みんなで考え、自分や誰かのために行動を起こした経験は、きっと明るい未来を切り拓いていく力になります。それが地域共創人の目指すところです。